

毎年100件以上発生 ～ストーブ、ファンヒーターの事故に注意！！～

ストーブ、ファンヒーター^{※1}の事故が毎年100件以上発生しています。死亡事故は毎年10件以上と、多くの方が被害に遭われています。NITE（ナイト）では、ストーブ、ファンヒーターの事故の再発防止を目的として注意喚起を行います。

2016年度から2020年度^{※2}の5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※3}では、ストーブ、ファンヒーターの事故は652件（石油タイプ307件、電気タイプ345件）ありました。事故の被害状況をみると、652件のうち、死亡事故が69件（石油タイプ44件、電気タイプ25件）、また出火による事故は652件中576件発生しています。ストーブ、ファンヒーターの事故は毎年11月頃から事故が増加し、1月に最も多く発生しています。

ストーブ、ファンヒーターの事故は、可燃物を近づけない、清掃をきちんと行うなど、使用上の注意をよく確認し、誤った使い方をしないよう気を付けることで防げるものがあります。一層寒さが増すこの時期に、使い方を確認し、事故を未然に防ぎましょう。



ガソリンの誤給油による発火事故の再現

■ストーブ、ファンヒーターの事故事例

- 電気ストーブの電源を入れたまま就寝したため、就寝中に布団が電気ストーブに接触し、布団が過熱して発火する事故が発生した。【2020年2月 岐阜県、20歳代・男性、拡大被害】
- 石油ストーブの内部に燃焼による多量のすすが付着し、空気が不足し、炎が逆流したことで堆積していたほこりが燃える事故が発生した。【2020年4月 大阪府、60歳代・男性、拡大被害】
- 石油ファンヒーターのカートリッジタンクにガソリンを誤って給油したため、消火後再度点火しようとした際に、揮発したガソリンに引火する事故が発生した。【2021年1月 滋賀県、年齢・性別不明、軽傷】
- 使用者が石油ストーブを点火状態のまま給油したため、カートリッジタンクをストーブ本体に戻す際に灯油がこぼれ、こぼれた灯油が高温状態の燃焼部などにかかり、灯油が発火して火災に至る事故が発生した。【2020年1月 大阪府、80歳代・男性、拡大被害】
- 電気ストーブの電源プラグ側のコードプロテクター一部に引っ張りや屈曲などのストレスが加わったり、芯線が断線して、短絡・スパークする事故が発生した。【2021年1月 兵庫県、年齢・性別不明、製品破損】

■ストーブ、ファンヒーターの気を付けるポイント

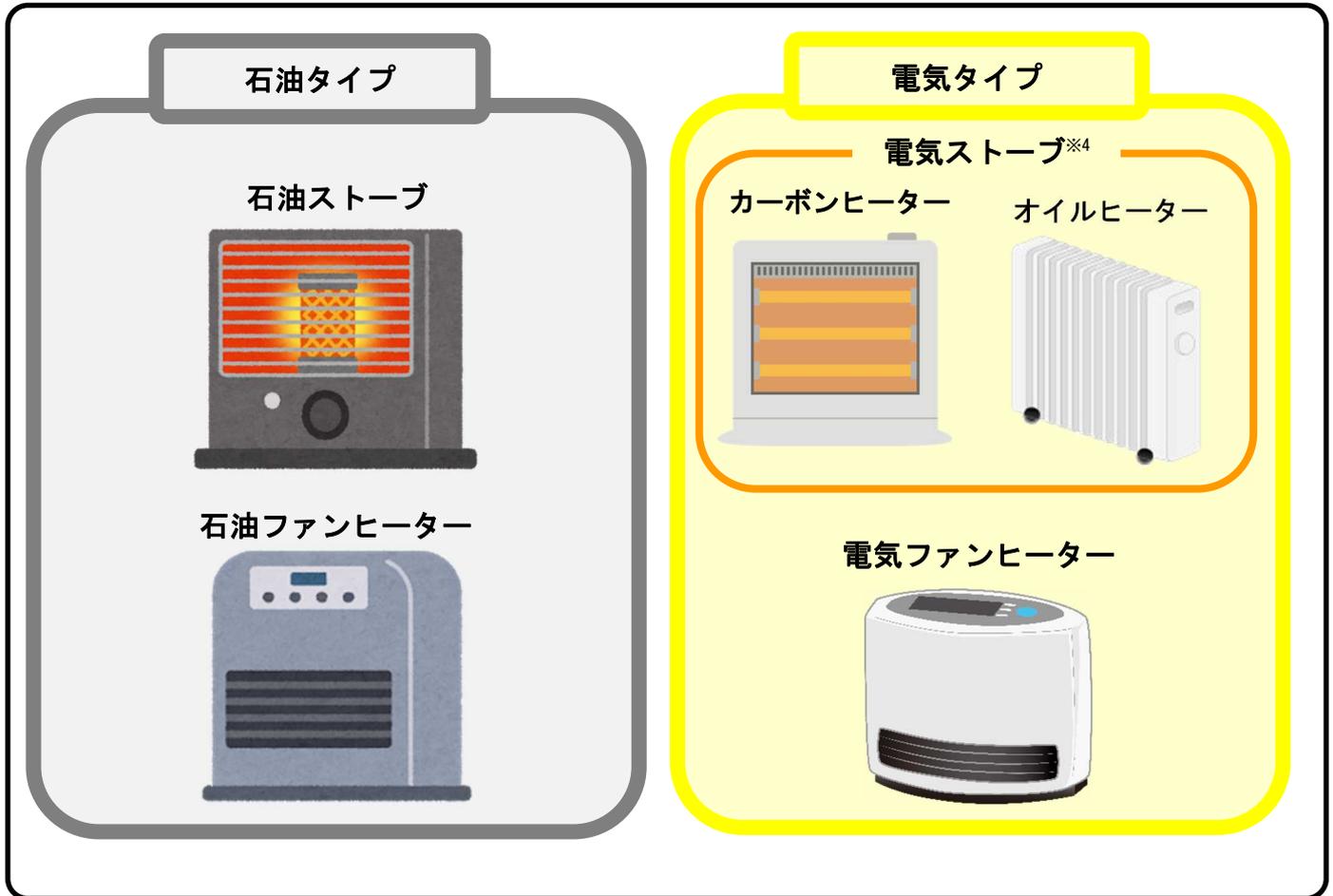
- 可燃物の近くで使用しない。
- 定期的に清掃を行い、ほこりやすすを取り除く。
- ガソリンを誤給油しないよう保管方法や保管場所に注意する。
- 暖房器具はつけたままにしない。石油ストーブなどは給油時に必ず消火する。
- 電気ストーブや電気ファンヒーターの電源コードを引っ張らない、折り曲げない。

(※1) 本資料では石油ストーブ、石油ファンヒーター、電気ストーブ及び電気ファンヒーターの4種をまとめて「ストーブ、ファンヒーター」と記述します。

(※2) 2016年4月1日～2021年3月31日の事故を対象とします。

(※3) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

対象製品および製品分類



(※4) 記載例以外にシーズヒーター、ハロゲンヒーター、パネルヒーターなども電気ストーブに含みます。

1. 事故発生状況

NITEに届けられた製品事故情報のうち、2016年度から2020年度に発生したストーブ、ファンヒーターの事故652件について、発生状況を示します。

1-1. 年度ごとの事故発生件数

図1に「年度ごとの事故発生件数」を示します。ストーブ、ファンヒーターの事故は毎年100件以上発生しており、2019年から2020年にかけては事故が増加しています。新型コロナウイルスの影響により、屋内で過ごす時間が増え、使用機会が増加したことが要因となっていると推測されます。

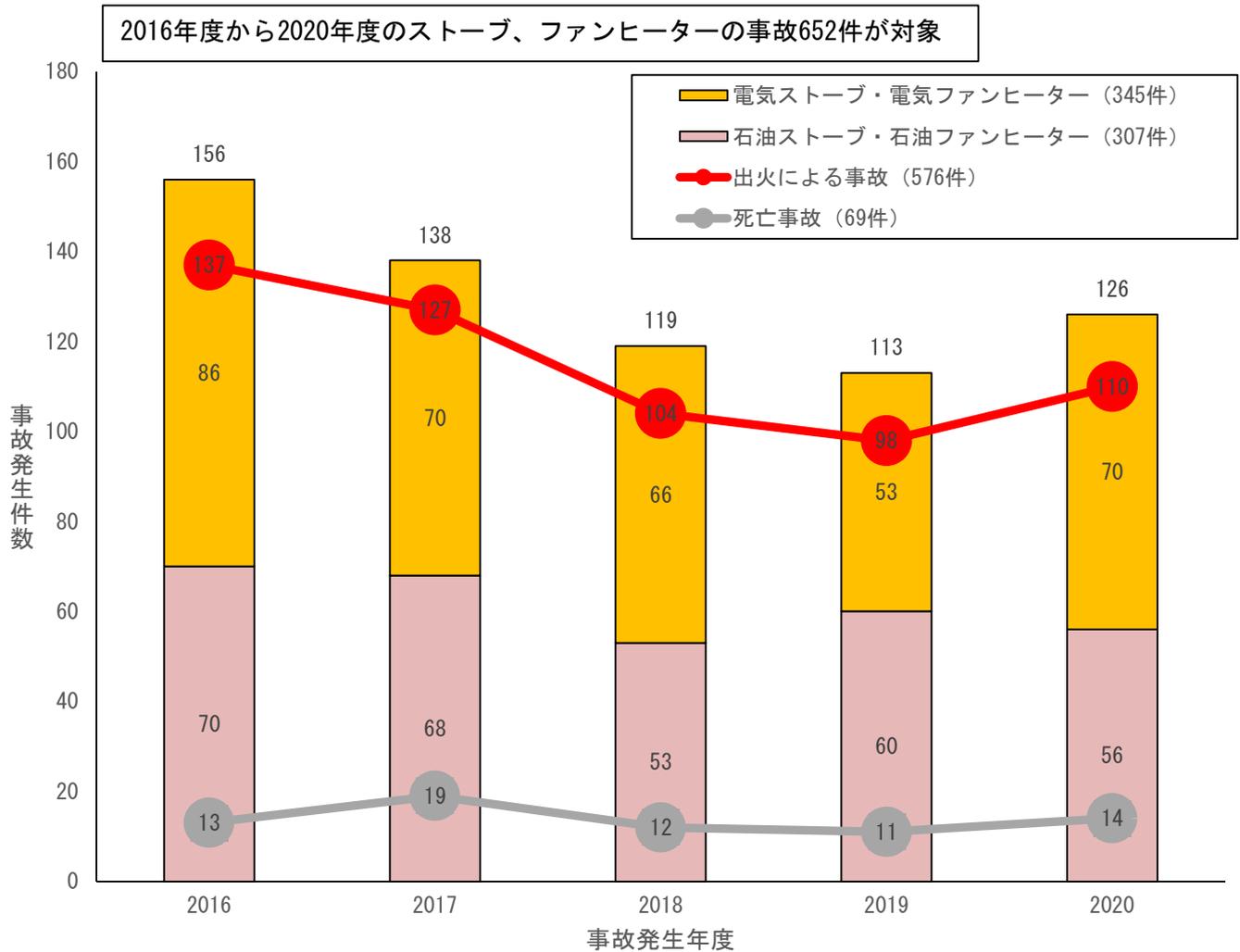


図1：年度ごとの事故発生件数

1-2. 被害状況別の事故発生件数

表1に「被害状況別の事故発生件数」を示します。652件の事故のうち、死亡事故が69件と多く発生しています。

表1：事故発生状況別の被害件数^{※5}

	死亡	重傷	軽傷	拡大被害 ^{※6}	製品破損	総計
石油ストーブ	33 (32)	6 (6)	31 (31)	121 (120)	22 (22)	213 (211)
石油ファンヒーター	11 (11)	2 (2)	16 (16)	50 (50)	15 (14)	94 (93)
電気ストーブ	23 (23)	6 (3)	9 (9)	126 (117)	123 (64)	287 (216)
電気ファンヒーター	2 (2)	1 (1)	2 (2)	33 (33)	20 (18)	58 (56)
総計	69 (68)	15 (12)	58 (58)	330 (320)	180 (118)	652 (576)

(※5) ()内は、各件数のうち、出火による事故の件数

(※6) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと

1-3. 月別の事故発生件数

図2に「月別の事故発生件数」を示します。11月頃から事故が多く発生し、1月に最も多くの事故が発生しています。

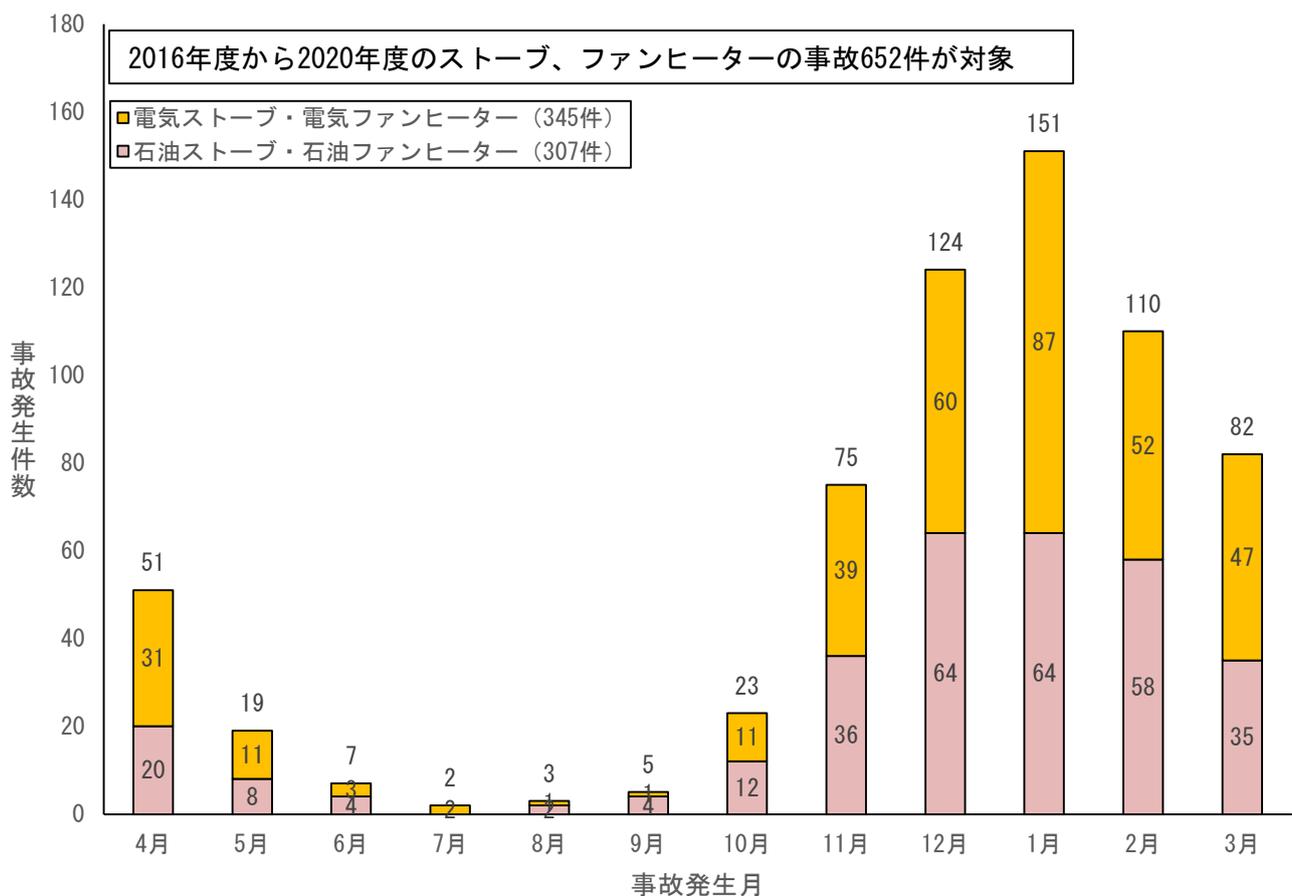


図2：月別の事故発生件数

1-4. 事故原因別の事故発生件数

図 3-1、3-2 にストーブ、ファンヒーターの調査の終了した事故について、「事故原因別の事故発生件数」を示します。

石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故 307 件のうち、調査の終了した事故は 296 件です。そのうち 134 件（45%）が誤使用や不注意により事故が発生しています。

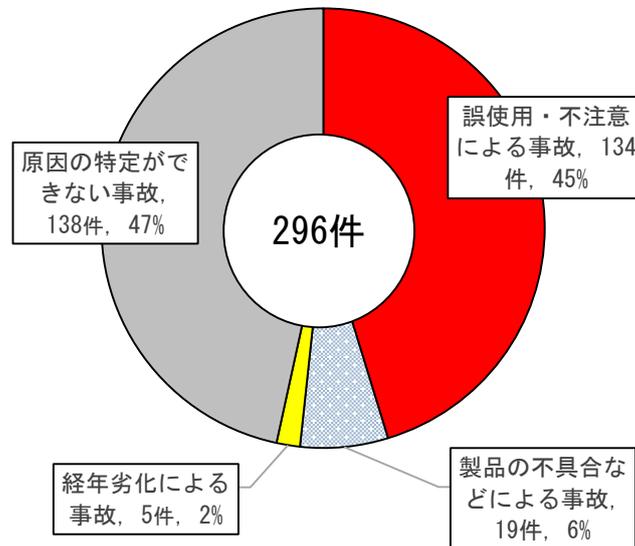


図 3-1：事故原因別の事故発生件数（石油ストーブ・石油ファンヒーター）

電気ストーブ・電気ファンヒーターの事故 345 件のうち、調査の終了した事故は 335 件です。169 件（51%）が製品の不具合などによる事故であり、そのうち 69 件がリコール対象製品による事故です。電子部品の不良や組立時の作業不備により、使用中の製品が発火する事故などが発生しています。

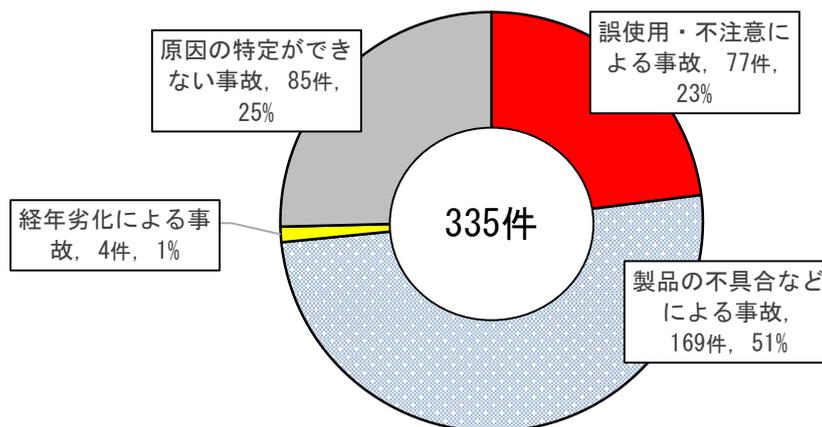


図 3-2：事故原因別の事故発生件数（電気ストーブ・電気ファンヒーター）

1-5. 事象別の被害件数

表 2-1、2-2 にストーブ、ファンヒーターの誤使用・不注意による事故における「事象別の被害件数」を示します。

石油ストーブ・石油ファンヒーターはガソリンの誤給油による発火事故が最も多く発生しています。被害状況としては可燃物の接触により 6 件の死亡事故が発生しています。清掃の不足でも事故は発生し、死亡事故に至っているものがあります。

特に、事故の多い「ガソリンの誤給油」「給油口からの灯油漏れ」「可燃物の接触」は事故が発生した場合大きな火災に至るおそれがあるため、注意が必要です。

表 2-1：事象別の被害件数（石油ストーブ・石油ファンヒーター）

	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計
ガソリンの誤給油により発火	2		8	23	2	35
給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などにより						
こぼれた灯油に引火	5		4	23	2	34
可燃物が放射熱で過熱又は接触して発火	6	2	2	18	2	30
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火	2			11	6	19
製品の取付不良による異常燃焼や過熱	3		2	1	1	7
灯油の拭き残しに引火		1		2	1	4
転倒させて発火				1	1	2
風による風量の変化で異常燃焼				2		2
修理不良による発火				1		1
総計	18	3	16	82	15	134

電気ストーブ・電気ファンヒーターは可燃物の接触による事故が多く発生しています。可燃物の接触による事故は石油タイプよりも多く発生し、被害状況としては 4 件の死亡事故が発生しています。火を使用していないため、可燃物を近づけることに関して火災の危機意識が薄れることが原因と考えられます。電源コード及び電源プラグが発火する事故も多く、軽くて向きを変えたり移動したりしやすい電気ストーブ・電気ファンヒーターだからこそ、その際にコードやプラグなどに大きな力が加わらないようにするといった注意が必要です。

表 2-2：事象別の被害件数（電気ストーブ・電気ファンヒーター）

	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計
可燃物が放射熱で過熱又は接触して発火	4	1	4	25		34
電源コードが繰り返しの引っ張り、折り曲げなどで断線・ショートし発火				17	10	27
電源プラグ周辺(刃受け間やプラグ内部)が接触不良などで異常発熱				5	2	7
修理不良による発火				3	1	4
転倒させて発火	1	1				2
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火			1			1
製品の取付不良による異常燃焼や過熱				1		1
経年劣化と異物の挟み込みによる異常燃焼					1	1
総計	5	2	5	51	14	77

2. 事件事例

2-1. ストーブ、ファンヒーターに共通する事故

2-1-1. 可燃物の接触

(1) 石油ストーブの事故

事故発生年月日 2020年9月（奈良県、70歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

使用中の石油ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

石油ストーブ上で衣類を乾かしていたため、落下した衣類がストーブに接触し、発火したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「衣類の乾燥厳禁。衣類などの乾燥には使用しない。衣類が落下して火がつき、火災の原因になる。」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

石油ストーブ、衣類

(2) 電気ストーブの事故

事故発生年月日 2020年2月（岐阜県、20歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

就寝中に電気ストーブを使用していたところ、周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

掛け布団と近接した位置に電気ストーブを設置して使用していたため、掛け布団が過熱して発火したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「燃えやすいものの近くでは使用しない。事故の原因となる。」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

電気ストーブ、布団

ストーブ、ファンヒーターの気を付けるポイント

○暖房器具の周囲に可燃物などを置かない。特に、近くで衣類などを乾かさない。

ストーブ、ファンヒーターの周囲に布団や衣類などを置いたり、カーテンの近くにストーブ、ファンヒーターを置いたりすると、放射熱^{※7}による過熱や高温部への接触によって、火災になるおそれがあります。

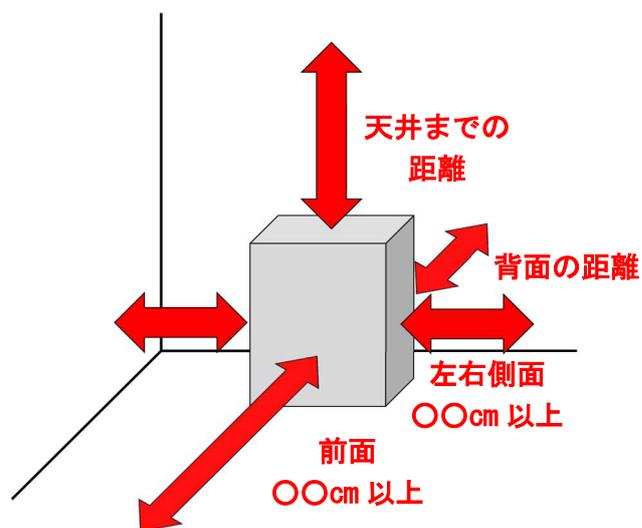
ストーブ、ファンヒーターの上で衣類を乾燥させると、乾燥して軽くなった衣類があおられて落下し、高温部に接触することがあります。また、ストーブ、ファンヒーターに衣類やタオルなどを掛けないように注意してください。ストーブ、ファンヒーターを消したと誤認し、火災になった事故もあります。このような使用は絶対にしないでください。

また、来ている服がストーブ、ファンヒーターに接しないように注意してください。着火するおそれがあります。

(※7) 放射熱とは、高温の物体が発する赤外放射などによって離れたところに熱が伝わる現象。



(参考例) 取扱説明書に周囲の物や天井、壁などとの距離について記載がありますので、確認し距離を取りましょう。※製品によって異なります。



○就寝する前に必ず消し、完全に消えたことを確認する。

ストーブ、ファンヒーターをつけたまま就寝すると、寝具などの可燃物が高温部に触れ、着火するおそれがあり、危険です。さらに就寝中は発見が遅れやすく、大きな火災につながるおそれがあります。就寝時の使用は絶対にしないでください。



○その場を離れる時や外出時などには消す。

部屋を暖めようとするなどして使用中にその場を離れている間に、可燃物がストーブ、ファンヒーターに接触して火災が発生した事故があります。また、ペットが可燃物を電気ストーブ前に運んで火災になった事例もあります。発見が遅れ、ストーブ、ファンヒーターのみならず周辺を焼損するおそれがあるため、別の部屋に移動するときや外出時など、ストーブ、ファンヒーターから離れる際はそれらを消してください。

2-1-2. 手入れ不足による異常燃焼や堆積物への引火

(1) 石油ストーブの事故

事故発生年月日 2020年4月（大阪府、60歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

使用中の石油ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

石油ストーブは、芯が正常な高さまで上がっておらず、内部に多量のすすが付着していたことから、日常的に不完全燃焼が起こっていたと考えられ、堆積したすすによって空気の流れが悪くなったことで吹き返し現象^{※8}が生じ、堆積していたほこりが燃えたものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

石油ストーブ、すす

(※8) 吸気不足などで炎が空気取り入れ口から逆流して出てくる現象

(2) 電気ストーブの事故

事故発生年月日 2018年3月（福岡県、40歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

使用中の電気ストーブ付近から出火して、周辺を焼損し、1人がやけどを負った。

【事故の原因】

電源プラグを延長コードのマルチタップに長期間接続したまま放置していたため、電気接続部に埃等が蓄積し、トラッキング現象^{※9}が生じて焼損したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

電気ストーブ、トラッキング

(※9) 付着したほこりや水分によりトラック（電気の通り道）が生成され、異常発熱する現象。

ストーブ、ファンヒーターの気を付けるポイント

○定期的に清掃を行う。

ストーブの中にほこりなどが堆積して燃焼炎やヒーターに接触することで発火する事故や、ファンヒーターの吸気部などにほこりが閉塞することで異常燃焼が生じる事故が発生しています。毎年使用を始める前に清掃を行い、シーズン中も定期的に清掃をしてください。特にストーブの台座部分や、燃焼部位の近くなどにほこりがたまらないようにしてください。

電気ストーブでは、電源コードについてもほこりなどは注意してください。電源プラグの栓刃付近に堆積したほこりでトラッキング現象が発生するおそれがあります。



清掃不足の例（石油ストーブ）

○去年の灯油は使用しない。

灯油を用いる石油ストーブや石油ファンヒーターは毎年使い終わりには中の灯油を全て使い切るか灯油を廃棄を行ってください。灯油は劣化するため、去年の燃料を持ち越して使用することは異常燃焼や一酸化炭素の排出を促進させるため危険です。

2-2. 石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故

2-2-1. ガソリンの誤給油

事故発生日月日 2021年1月（滋賀県、年齢・性別不明、軽傷）

【事故の内容】

使用中の石油ファンヒーター付近から出火し、周辺を焼損、使用者がやけどを負った。

【事故の原因】

ファンヒーターのカートリッジタンクなどからガソリンが検出されたことから、使用者がガソリンを誤って給油したため、消火後再度点火しようとした際に、滞留していたガソリンのガスに引火した事故と考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

石油ファンヒーター、ガソリン

石油ストーブ・石油ファンヒーターの気を付けるポイント

○灯油は灯油用ポリタンクなどの専用容器に入れ、ガソリンと別の場所で保管する、ラベル表示で区別するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。

ガソリンを誤って給油した場合、たとえ少量の混入であっても火災が生じるおそれがあるため、注意が必要です。

灯油とガソリンを類似した容器で保管していたことで、ガソリンが混入した灯油を給油して火災に至った事故が発生しています。灯油は灯油用ポリタンクなどの専用容器※10に入れ、ガソリンは消防法に適合した金属製のガソリン携行缶に入れて保管してください。

また、同じ場所で保管していたガソリンを誤って給油して火災に至った事故が発生しています。灯油とガソリンは、別の場所で保管する、ラベル表示で区別するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底してください。



灯油用ポリタンクのラベル



ガソリン用携行缶



(写真) ガソリンを給油して爆発的に燃え上がる様子 (イメージ)

(※10) JBA (日本ポリエチレンブロー製品工業会) 推奨ラベル、KHK (危険物保安技術協会) の試験確認済証、JIS 規格認証 (JIS Z 1710) などの付いた容器

2-2-2. 給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などによりこぼれた灯油に引火

事故発生年月日 2020年1月（大阪府、80歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

使用中の石油ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

使用者が点火状態のまま、給油後、カートリッジタンクをストーブ本体に戻す際にこぼれた灯油が高温状態の燃焼部などにかかり、火災に至ったものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「給油時は消火する。油もれの確認を行う。給油口を確実に閉める。」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

石油ストーブ、消火

石油ストーブ・石油ファンヒーターの気を付けるポイント

○給油する前に必ず消火する。給油後は、給油口キャップをしっかりと締め、灯油がこぼれないことを確認してから本体にセットする。

給油口キャップの締め方が不十分だったなどで、灯油がこぼれて引火した事例があります。給油する際は、必ず消火してからにしてください。

また、カートリッジタンクへの給油後は、給油口キャップを閉め、しっかりと締まっていることを必ず確認してから本体にセットしてください。

灯油がストーブ、ファンヒーターにこぼれた際は、機器内部に浸入しているおそれがありますので、使用を中止し、販売事業者や製造事業者にご相談してください。



(写真) 消火せずに給油し、灯油がこぼれ引火（イメージ）



(写真) 消火後に燃焼筒の温度が高温になっており、灯油がかかり引火（イメージ）



(写真) 再点火した際に、こぼれた灯油に引火（イメージ）

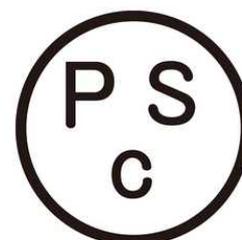
○PSC マークの付いた製品への買い換えを検討する。

石油ストーブをはじめとする石油燃焼機器は、2009年に消費生活用製品安全法の「特定製品」に指定され、2011年からはPSCマークの無い製品は販売することができなくなりました。PSCマークの付いた製品は、

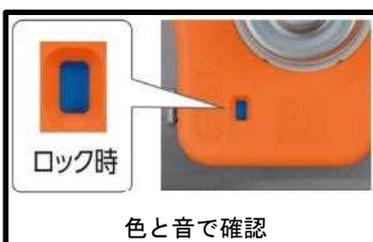
・燃焼中であっても、給油時、機器からカートリッジタンクを抜いた場合90秒以内に消火する（給油時消火装置）。

・閉止音や目視又は感触などで給油口キャップが閉まっていることが確認できる。

などの機能を有しています。



マークは製品ラベルなどに表示されています



2-3. 電気ストーブ・電気ファンヒーターの事故

2-3-1. 電源コードが繰り返しの引っ張り、折り曲げなどで断線・ショートし発火
事故発生年月日 2021年1月（兵庫県、年齢・性別不明、製品破損）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、電源コードから火花が出た。

【事故の原因】

電源プラグ側のコードプロテクター部に引っ張りや屈曲などのストレスが加わったことから、芯線が断線し、短絡・スパークが発生したものと考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

電気ストーブ、断線

電気ストーブ・電気ファンヒーターの気を付けるポイント

○電源コードを引っ張らない、折り曲げない。

電源プラグや電源コードの付け根（コードプロテクター）で電源コードが断線し、スパークが発生し火災に至っています。電源プラグをコンセントに差し込んだまま製品を移動させないでください。また、抜く際は電源プラグを持って抜いてください。同様に、保管時に電源コードを本体にきつく巻き付けしないでください。いずれの場合も電源コードに大きな力が加わり、断線するおそれがあります。

電気ストーブは取り回しのよさからこまめに移動させることが多いため、他の家電製品よりも多くの負荷が電源コードに掛かることが予想されます。移動させる際や抜き差しする際は無理に引っ張ったりなどしないでください。

2-3-3. リコール製品の事故

事故発生年月日 2020年1月（岡山県、50歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブ使用中、周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電気ストーブの電源電線とヒーター管を接続する接続端子の接触不良等により、発熱・発火したものと考えられる。なお、この製品は2007年よりリコール（無償回収）が行われているものであった。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

電気ストーブ、リコール

リコール製品の事故を防ぐ

○最新のリコール情報を入手する

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しています。お持ちの製品がリコール製品かどうかを確認することが可能です。

製品が発売されてから数年後にリコールを実施したという事例や、型式などに限定せず、長期間使用していることを注意喚起している製品などもあります。

また、使用しなくなり、保管されていた製品がリコール製品だった事例もあるため、併せて注意が必要です。

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/index.php>



一般消費者用検索ツール「SAFE-Lite」のご紹介

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite（セーフ・ライト）」のサービスを行っております。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojobou/safe-lite.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 古田 英雄
担当者 製品安全広報課 山崎、佐藤、向井

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

ストーブ、ファンヒーターの出荷台数

図 4 に一般社団法人日本ガス石油機器工業会による石油ストーブ・石油ファンヒーターの年度別国内出荷実績（2020 年度は見込み）を示します。2020 年度は石油ストーブ・石油ファンヒーターのどちらも出荷見込が前年度に比べて増加しています。2020 年度は冬（2020 年 12 月～2021 年）の気温が前年度よりも低かったため、需要が高まったものと推定されます。

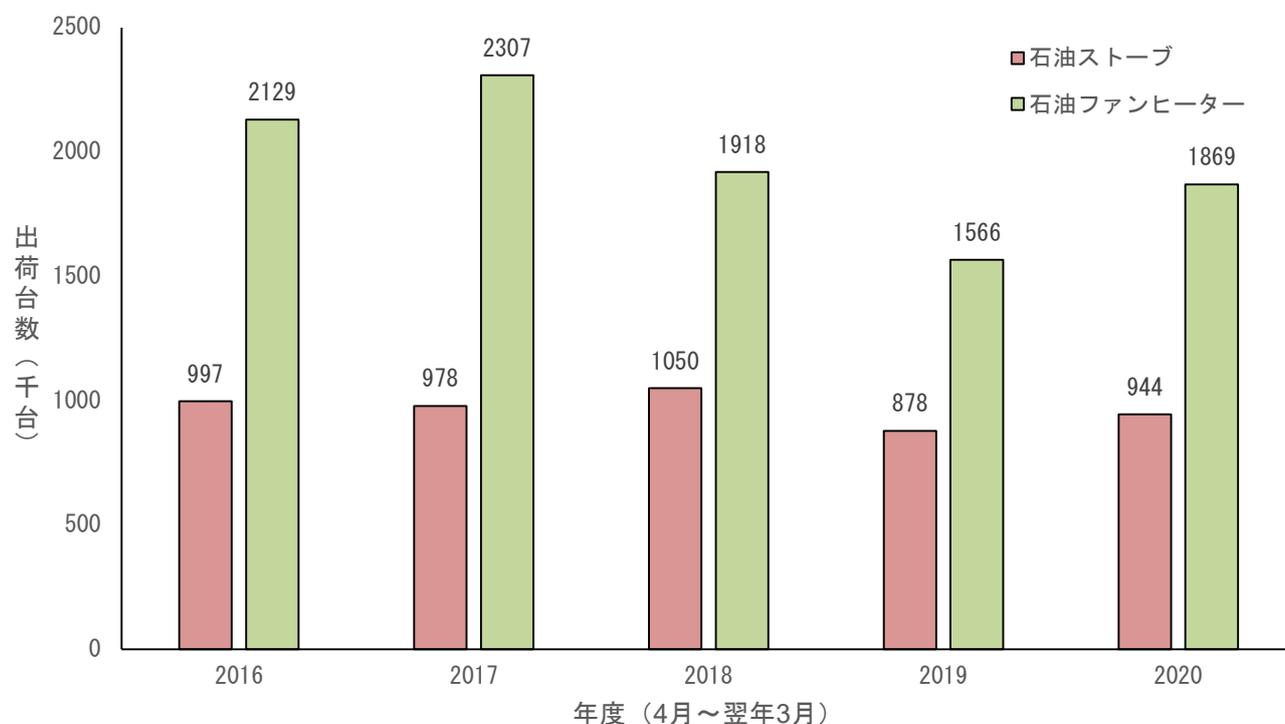


図 4：年度別国内出荷実績

出典：一般社団法人日本ガス石油機器工業会「ガス石油機器の出荷実績 2021 年(令和 3 年)7 月発行」

※グラフは上記資料データより NITE が作成したものです。

https://www.igka.or.jp/industry/toukei/kougyo-toukei/shukkajisseki/pdf/2021_07_07_gasusekiyukiki_shukkajisseki_2020.pdf

一般社団法人日本電機工業会の公表している統計によると、「電気温風機（ファンヒーター）・電気ストーブ」の国内出荷実績は 2021 年 1 月～9 月の累計で 313（千台）^{※10} となっており、前年比で 158.0%と、需要が増加していることがわかります。

（※10）単位未満（百以下）のものは実績を”0”としております。

出典：一般社団法人日本電機工業会「民生用電気機器 国内出荷実績 2021 年 9 月分」

<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/data/kakoku.html>

参考情報

図 5-1、5-2 に石油ストーブ・石油ファンヒーターの「時間帯別の事故発生件数」及び「被害者年代別の事故発生件数」を示します。

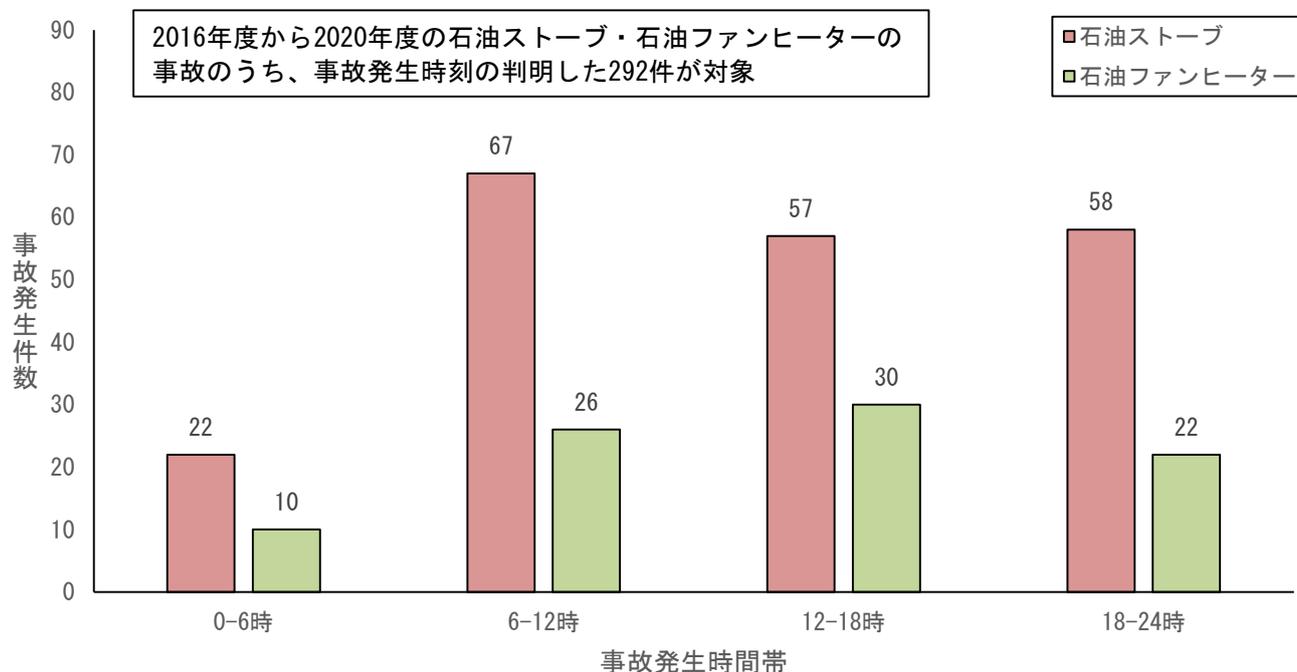


図 5-1：時間帯別の事故発生件数（石油ストーブ・石油ファンヒーター）

高齢者に多くの事故が発生しています。年齢により使用の慣れからくる油断や、消し忘れなどが増える事が原因と推定されます。

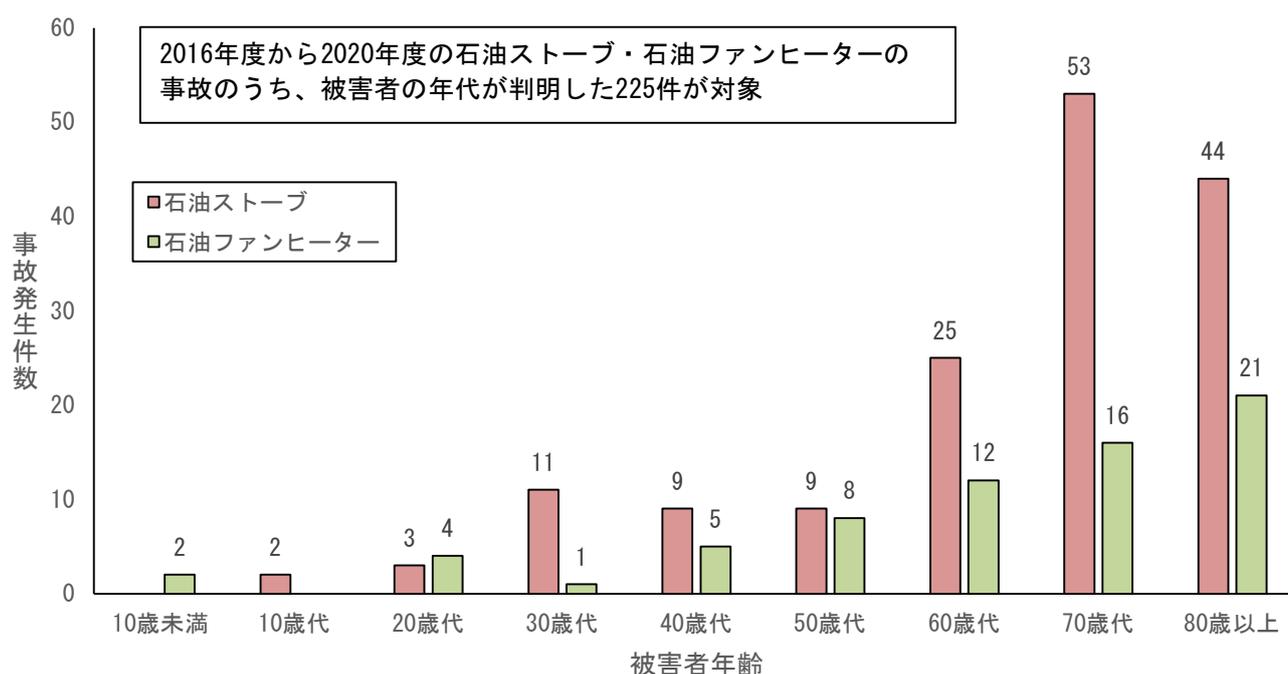


図 5-2：被害者年代別の事故発生件数（石油ストーブ・石油ファンヒーター）

図 6-1、6-2 に電気ストーブ・電気ファンヒーターの「時間帯別の事故発生件数」及び「被害者年代別の事故発生件数」を示します。

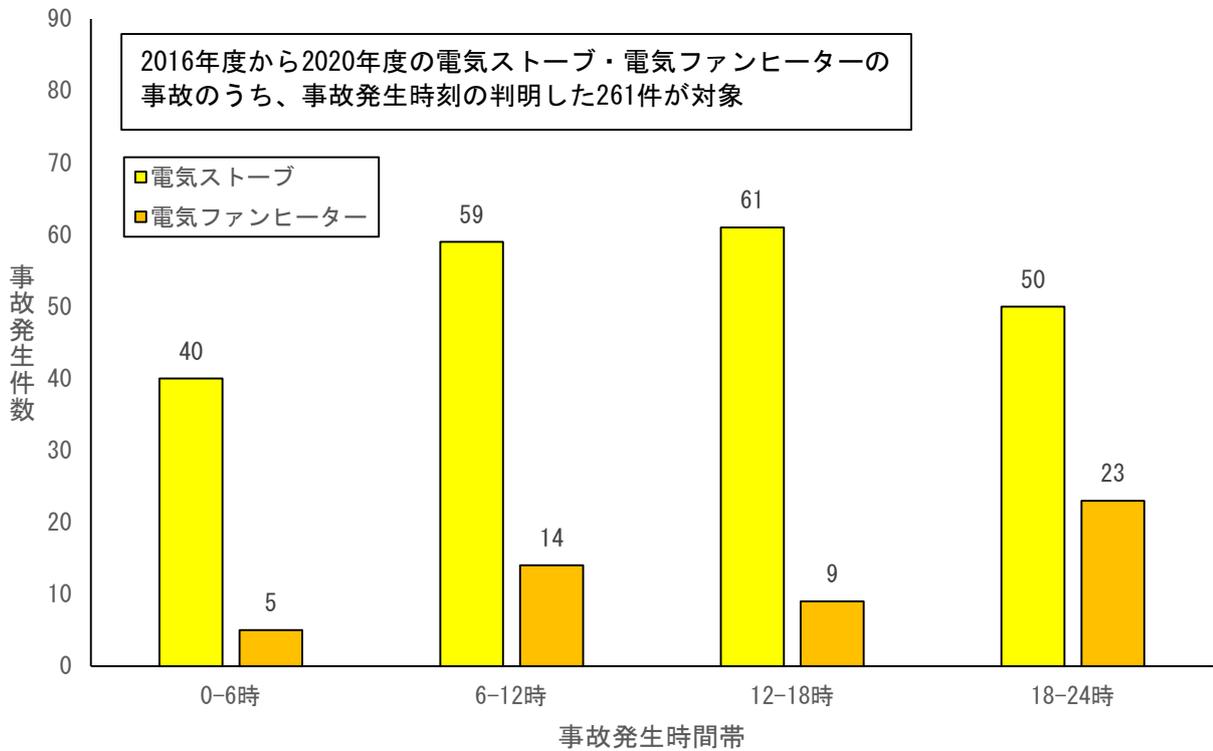


図 6-1：時間帯別の事故発生件数（電気ストーブ・電気ファンヒーター）

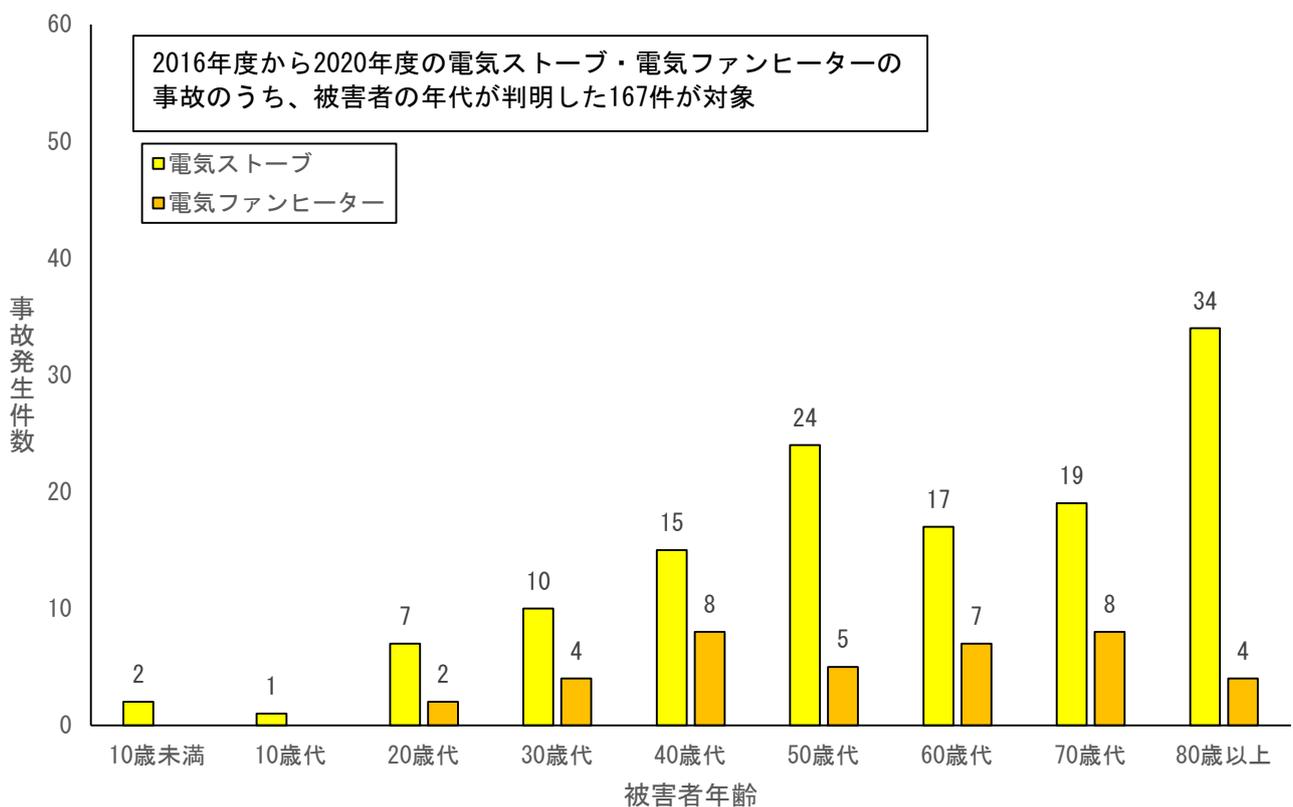


図 6-2：被害者年代別の事故発生件数（電気ストーブ・電気ファンヒーター）

表 3-1、3-2 にストーブ、ファンヒーターの誤使用・不注意による事故における「製品別の事故発生事象」を示します。

表 3-1：製品別の事故発生事象（石油ストーブ・石油ファンヒーター）

	石油ストーブ	石油ファンヒーター	総計
可燃物が放射熱で過熱又は接触して出火	23	7	30
ガソリンの誤給油により出火	16	19	35
給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などにより漏れた灯油に引火	26	8	34
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火	17	2	19
製品の取付不良による異常燃焼や過熱	7		7
修理不良		1	1
転倒させて発火	2		2
灯油の拭き残しに引火	2	2	4
風による風量の変化で異常燃焼	2		2
総計	95	39	134

表 3-2：製品別の事故発生事象（電気ストーブ・電気ファンヒーター）

	電気ストーブ	電気ファンヒーター	総計
可燃物が放射熱で過熱又は接触して出火	31	3	34
電源コード（プロテクター、内部配線コードを含む）が繰り返し引っぱり、折り曲げなどで断線・ショートし発火	20	7	27
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火	1		1
製品の取付不良による異常燃焼や過熱	1		1
電源プラグ周辺（刃受け間やプラグ内部）が接触不良などで異常発熱	6	1	7
修理不良	3	1	4
転倒させて発火	2		2
経年劣化と異物の挟み込みによる異常燃焼	1		1
総計	65	12	77

公表日	品名	事業者名称	社告内容
石油ストーブ、石油ファンヒーターの事故に係るリコール			
2008/9/18 2011/09/27(再社告)	石油ストーブ	株式会社コロナ 法人番号： 5110001014116	<p>[製品名及び型式] 石油ストーブ（よごれま栓タンク） ワンタッチ式給油タンク（よごれま栓タンク）</p> <p>[販売等期間] 1987年～2000年（製造）</p> <p>[社告等の内容] 当製品の一部において、給油時に消火をしないで、確実にロックするまで押さず、ロックの確認をおこなわなかった場合、給油口がロックされたと誤認し、取扱い中不意に給油口が開き、油がこぼれるなどして、火災に至る可能性があることが判明。</p> <p>[対処方法] 無償点検・修理</p>
2010/9/1	石油ストーブ	株式会社 千石 法人番号： 5140001076302	<p>[製品名及び型式] 株式会社 グリーンウッド ・グリーンウッド GKP-S241N、GKP-M2401N、GKP-W301N</p> <p>日本エー・アイ・シー株式会社 ・アラジン AKP-U28A、AKP-S280、AKP-S300</p> <p>[販売等期間] 2009年9月～2010年3月</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、口金キャップを正しく確実にしめないと、口金キャップが外れて、油が漏れるおそれがある。 * 交換までの間、取扱説明書、注意ラベルに従って、正しく確実に閉めて使用してください。</p> <p>[対処方法] 無償交換（カートリッジタンク）</p>
電気ストーブ、電気ファンヒーターの事故に係るリコール			
2019/5/23	電気ストーブ	株式会社アイデア インターナショナル 法人番号： 1011001002289	<p>[製品名及び型式] 製品名、型式、JANコード、商品コード、カラー： 製品名 型式 JANコード 商品コード カラー 1. コンパクトレトロヒーター BOE048-GRG 4514499142203 7760510 グレージュ 2. コンパクトレトロヒーター BOE048-PK 4514499142210 7760511 ピンク 3. コンパクトレトロヒーター BOE048-GR 4514499142227 7760512 グリーン</p> <p>[販売期間] 2018年10月～2019年5月</p> <p>[リコールの内容] スイッチ部品の一部不具合により、スイッチ操作ができなくなるという事象及び通電不具合による異臭に至るおそれがあるため。</p> <p>[対処方法] 回収・返金</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2019/2/25	電気ストーブ	シロカ株式会社 法人番号： 9010001200333	<p>[製品名及び型式] 商品名： 速暖マイカヒーター</p> <p>型番： SH-M111 (W) SH-M111 (B) SH-M121 (W) SH-M121 (B)</p> <p>製造番号※： ××17DEF130×××× ××17DEF13×××× ××18DEF130×××× ××18DEF131×××× ※×にはアラビア数字が入ります。</p> <p>[販売等期間] 2017年6月～2018年12月</p> <p>[リコールの内容] 内部配線接続部の圧着不良により、接続部が異常発熱して発火に至るおそれがあるため。</p> <p>[対処方法] 対象製品の点検・修理（無償）</p>
2016/3/19	電気ストーブ	ユアサブプライムス株式会社 法人番号： 6010001059673	<p>[製品名及び型式] 商品名：カーボンヒーター 型番：(1) リモコンタイプ/YA - C945SR (WH) / JANコード：4979966463951 (2) リモコンタイプ/KYA - C915R (WH) / JANコード：4979966464897 (3) メカタイプ/YA - C900S (WH) / JANコード：4979966463937</p> <p>[販売等期間] 2015年9月29日～2016年2月20日</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、部品に不具合のあるものが一部混入したことにより、まれに発煙・発火に至る恐れのあることが判明いたしました。</p> <p>[対処方法] 製品回収(無償点検・修理)</p>
2008/04/21 2012/02/24 (再社告) 2013/3/11 (再々社告)	カーボンヒーター /ハロゲン・ヒーター	燦坤（サンクン） 日本電器株式会社 法人番号： 9010501021064	<p>[製品名及び型式]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーボン・ヒーター TSK-5328CT (2005年、2006年製) TSK-5328CRI (2005年、2006年製) UHC-9T (2007年製) UHC-3T (2008年、2009年製) ・ハロゲン・ヒーター FS-900T (2006年、2007年製) <p>[販売等期間] 2005年9月～2009年3月</p> <p>[社告等の内容] 当製品において、部品の不具合により、発煙・発火に至る可能性があることが判明。</p> <p>* 2008年4月21日に新聞紙上で行った社告の再々社告</p> <p>[対処方法] 回収（返金）</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2008/10/15 2009/10/06 (再社告)	遠赤外線ヒーター	株式会社デンソー 法人番号： 9180301014251	<p> [製品名及び型式] 製品名「エンセキ」 機種名 7FX 品番 ホワイト (479000-2200) グレー (479000-2230) 販売期間 1989年9月～1990年3月 </p> <p> 機種名 10FA 品番 ホワイト (479000-2170、479000-2171、479000-2172、 479000-2370、479000-2490) 品番 グレー (479000-2220、479000-2221 479000-2380、479000-2500) 販売期間 1987年9月～1997年12月 </p> <p> 機種名 10FC 品番 ホワイト (479000-2190、479000-2191、479000-2192 479000-2390、479000-2470) 品番 グレー (479000-2280、479000-2400、479000-2480) 販売期間 1988年9月～1997年11月 </p> <p> 機種 12F 品番 樹脂スタンド (479000-2080 479000-2081) 品番 金属スタンド (479000-0280 479000-2040) 販売期間 1982年9月～1988年1月 </p> <p> 機種 12FD 品番 樹脂スタンド (479000-2090 479000-2091) 品番 金属スタンド (479000-0290 479000-2050) 販売期間 1982年9月～1988年1月 </p> <p> 製品名「スキニー セラミック ヒーター」 機種名 ERF121VAA ERF121VAB ERF121VDA 品番 レッド (479000-5020 479000-5021 479000-5030) 販売期間 1984年10月～1987年12月 </p> <p> [販売等期間] 1982年9月～1997年12月 </p> <p> [社告等の内容] 当製品の一部において、発煙・発火するおそれがあることが判明。 (2008年10月15日付け社告の再社告) </p> <p> [対処方法] 回収 (一台につき2万円で引き取り) </p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2007/3/27	ハロゲンヒーター	株式会社ジェ・ネット 法人番号： 2011801002009	<p>[製品名及び型式等] 速暖ハロゲン遠赤外線ヒーター KSL-881、KSH-880</p> <p>[社告等の内容] 速暖ハロゲン遠赤外線ヒーターの一部商品に、希に本体一部が発熱し、発煙、発火する恐れがある。</p> <p>[対処方法] 製品回収</p>
2006/02/06 2006/11/14 (再社告)	電気ストーブ	株式会社山善 法人番号： 1120001049040	<p>[製品名及び型式] YAMAZEN カーボンヒーター 型番：NC-WT900</p> <p>[販売等期間] 平成17年8月～平成17年11月 製造</p> <p>[確認方法] 型番は本体背面下部に取り付けられている銘板に表示</p> <p>[社告等の内容] 配線の結線不具合により、使用中に発熱・発火に至る危険性のあることが判明した。</p> <p>[対処方法] 製品回収</p>
2001/10/16 2002/9/10 (再社告)	オイルヒーター	日本フィリップス 株式会社（現：株 式会社フィリップ ス・ジャパン） 法人番号： 1010401025874	<p>[商品名及び型式] オイルヒーター HD3477、HD3478、HD3479</p> <p>[製造／輸入期間] 平成10年8月～平成11年12月</p> <p>[社告等の内容] 平成10年9月から生産・販売していた日本フィリップス製オイルヒーターの一部に、生産初期段階での作業不良品が混入し、長期間の使用に、まれに発煙、発火に至る可能性があることが判明した。 (平成13年10月16日、11月13日に行った社告の再社告)</p> <p>[対処方法] 無償で点検・修理。</p>